2024 2・12 毎週月曜 第5週除く 第1329号

週刊ビル経営

発行所 ㈱ビル経営研究所　〒104-0061 東京都中央区銀座7-17-12 2F　TEL 03(3543)7421　FAX 03(3543)5839
発行人 垂澤清三　年間購読料33,000円（税込）

編集後記

先日は都心でも積雪を観測した。その日の夜は何度も転びそうになった。都心の雪は翌日になるとほぼ消えてしまったが、郊外は少し様子が違った。降雪があった2日後、都心から電車で30分ほどの住宅地へ取材で赴いた。事前の情報では、目的地は駅から約15分。だが初めて訪れる土地で目的地になかなか着かない。車通りの少ない生活道路に入ると、道路上でも雪がまだ積もっている。道に迷いながら右往左往し、私も同行者も次第に足もとが雪まみれになってきた。トドメに横を通り抜ける車が巻き上げた雪をかぶったところで、私の遭難体験は終わることとなった。（鵜野）

不動産業界

護和津氏 ECO取締役社長

★データ

①1981年2月6日②京都府③岡山大学中退④専門商社⑤「世のため人のため」「おかげさま」⑥園芸・散歩

★プロフィール

表取締役。「株式会社G＆ECO」代表取締役。

★会社メモ

発電機や蓄電池、ポータブル電源、太陽光発電等、エネルギー関連機器全般を扱う専門商社。大規模から小規模まで専門商社ならではの顧客ニーズに合ったきめ細かな提案が強み。

生産技術道入した仕主い

とィしる。
いのた。

語く動まよ性るの言

銀座のビルの屋上で楮を収穫

春には銀座産和紙が完成予定

銀座ミツバチプロジェクト

副理事長
田中　淳夫氏

銀座ミツバチプロジェクト（東京都中央区、以下銀ぱち）は先月22日、「銀座ブロッサム中央会館」の屋上で栽培している楮（こうぞ）の収穫を行った。

楮はクワ科の落葉低木で、和紙の材料などとして使われる植物。楮の栽培を始めたのは、2012年に高知県在住のオランダ人和紙職人・ロギール・アウンテンボーガルト氏が銀ぱちを訪れたことに始まる。

和紙の技術は2014年、ユネスコの無形遺産に登録された。その一方、原材料の多くは海外に頼る状況であると、同氏が訴えたのである。そこで銀ぱちは、中央区の施設の屋上で楮と三椏（ミツマタ）を栽培。初年度は収穫した楮からたったA3判3枚分の和紙しか取れなかった。しかし、諦めずに活動を続け、2020年には銀座に竣工したACマリオットホテルのELVホール12フロアの内装に提供できるまでに広がった。

楮は高知県梼原町でロギール氏が漉いて、秋には水墨作家団体と展覧会を開くまで「銀座産和紙」の価値が高まってきている。銀ぱちは今後も、日本の伝統工芸のサポート・発信について、屋上緑化活動を通じて行っていくという。

◀収獲した楮は和紙に加工する

▶銀座産和紙とほかの和紙の違いをレクチャー